

第20回外国語コンテスト中国語 法・経済・経営・国際コミュニケーション学部部門が、2014年11月20日（木）午後1時より、新名古屋校舎講義棟 802 教室にて行われました。参加者は7名でした。

今回のコンテストの課題も課題文の朗読で、基礎部門（「入門・基礎」履修中の学生）と応用部門（「応用・発展・演習」履修中の学生）とに分けて審査を行いました。基礎部門は「わたしの一日」という一日の生活の流れを紹介する約100文字の文章を、ピンイン（中国語発音記号）に従って朗読してもらいました。一方、応用部門は「中国と日本」という本の中にある「中国について」を紹介する長めの文章を朗読してもらいました。

両部門とも評価のポイントは、第一に発音の正しさにあります。その他、文章の区切り、強弱のつけ方や速度などが適切でスムーズであるかをみました。会場は緊張感にあふれ、どの出場者も真剣で、入賞を目指して全力投球してくれました。

審査員は経済学部の葛谷先生、桑島先生と国際コミュニケーション学部の塩山先生、法学部の鄭が担当しました。厳正な審査によって、下記の学生を入賞者として決定しました。

第1位	13K2028	宮地 志奈
第2位	14M3281	三輪 悟
第3位	13M3205	加藤 悠未子

第1位に入賞した宮地志奈さんは、きれいな発音と朗読のスムーズな流れという点が特に優れていて、会場からもたくさんの称賛の声が送られました。宮地さんのなめらかな朗読と、中国語で発音したときの自由に口を動かしていた様子からも、中国語を体に染み込んでいるように感じました。

第2位の三輪悟さんはまだ1年生ですが、落ち着いた丁寧な朗読と正確な発音が印象的でした。コンテストは今回で20回目ですが、このように1年生が2位に入賞したのは2回目です。

第3位の加藤悠未子さんは普段は照れ屋で、人前でしゃべることが必ずしも得意ではないということですが、本番では「やるしかない」という強い気持ちがあるように見受けられました。しっかりとした、癖のない丁寧な発音でした。

入賞者のみなさん、参加者のみなさん、本当に有難うございました。

法学部 鄭 高咏